

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理學 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
生命健康 科学部 作業療法 学科	4人	4人	3人	1人	12人	6人	7人	0人	23人	14.3人	
計	4人	4人	3人	1人	12人	6人	7人	0人	23人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分類 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	担当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	スタートアップセミナー	15	長谷川康博、岡野 昭夫、 長谷川龍一、向 文緒、 榊原 明、牧瀬 英幹、 田島 織絵、津田 聡子、 澤田 泰洋、中川与四郎、 谷利 美希、伊藤 玲子	専任
		英語スキルⅠ	15	大門 正幸、他	兼任
		英語スキルⅡ	15	大門 正幸、他	兼任
		英語スキルⅢ	15	西村 智、他	兼任
		英語スキルⅣ	15	西村 智、他	兼任
		日本語スキルA	15	上田 美紀、他	兼任
		日本語スキルB	15	千葉 軒士	兼任
		情報スキル入門	15	鈴木 知治、他	兼任
		情報スキル活用	15	山田 裕子	兼任
		留学英語A (TOEFL)	15	小栗 成子	兼任
		留学英語B (TOEFL)	15	小栗 成子	兼任
		資格英語A (英検)	15	加藤 由崇	兼任
		資格英語B (TOEIC)	15	加藤 由崇	兼任
		イングリッシュワークショップ	15	Kevin Jambor	兼任
		パセオアカデミックL&S A	30	Adam Martinelli	兼任
		パセオアカデミックL&S B	30	Adam Martinelli	兼任
		パセオアカデミックR&W A	30	Adam Martinelli	兼任
		パセオアカデミックR&W B	30	Adam Martinelli	兼任
		パセオコンテンツA	15	Adam Martinelli	兼任
		パセオコンテンツB	15	Adam Martinelli	兼任
		ドイツ語入門Ⅰ	15	磯村 尚弘	兼任
		ドイツ語入門Ⅱ	15	中川 拓哉	兼任
		フランス語入門Ⅰ	15	松浦 宏信	兼任
		フランス語入門Ⅱ	15	玉田 敦子	兼任
		中国語入門Ⅰ	15	王 曉星	兼任
		中国語入門Ⅱ	15	王 曉星	兼任
		スペイン語入門Ⅰ	15	高山 克子	兼任
		スペイン語入門Ⅱ	15	高山 克子	兼任
		ポルトガル語入門Ⅰ	15	Dias Hadama Patricia	兼任
		ポルトガル語入門Ⅱ	15	田中 高	兼任

	韓国語入門Ⅰ	15	世古口 真	兼任
	韓国語入門Ⅱ	15	世古口 真	兼任
	実践外国語A	15	Ruben Figueroa	兼任
	実践外国語B	15	蒼田 百合絵	兼任
	語学研修A	15	今村 洋美	兼任
	語学研修B	15	今村 洋美	兼任
	世界の歴史と日本	15	西山 伸一	兼任
	日本の歴史と文化	15	和崎 聖日	兼任
	芸術の世界	15	水村 さおり	兼任
	芸術の表現	15	水村 さおり、他	兼任
	映像を読む	15	和崎 聖日	兼任
	教育をみつめて	15	John Gathright	兼任
	哲学と思考	15	三浦 太一	兼任
	現代社会と法	15	玉木 満	兼任
	日本の憲法	15	玉木 満	兼任
	政治と社会	15	安武 裕和	兼任
	現代経済とビジネス	15	小山 太郎	兼任
	生活環境と人間	15	大橋 岳	兼任
	心と身体	15	荒川 尚子、他	専任
	数学の思考法	15	相川 弘明	兼任
	物理と自然	15	小井 辰巳	兼任
	化学と物質	15	幅上 茂樹	兼任
	生物と環境	15	土田さやか、他	兼任
	生命と医療	15	新谷 正嶺、他	兼任
	科学技術と社会	15	大橋 岳	兼任
	地球と生命	15	工藤 健	兼任
	データサイエンスのための数理要論	15	奥島 輝昭	兼任
	問題解決のための統計学入門	15	後藤 振一郎	兼任
	リベラルアーツ課題演習A	15	鈴木 順子	兼任
	リベラルアーツ課題演習B	15	久米 一世	兼任
	リベラルアーツ課題演習C	15	松村 亜矢子	兼任
	自己開拓A	15	寺澤 朝子	兼任
	自己開拓B	15	大橋 岳	兼任
	人類と資源	15	工藤 健	兼任
	持続学のすすめ	15	行本 正雄	兼任
	地域の防災と安全	15	杉井 俊夫	兼任
	地球を観る	15	工藤 健、他	兼任
	グローバル環境論	15	山田 裕子	兼任
	地域共生実践	15	竹内 環	兼任
	健康科学	15	梅寄 周毅	兼任
	スポーツA	15	松岡 大介	兼任
	スポーツB	15	松岡 大介	兼任
	スポーツC	15	櫛田 亮介	兼任
	スポーツ活動A	15	梅寄 周毅	兼任
	スポーツ活動B	15	梅寄 周毅	兼任
	スポーツ活動C	15	梅寄 周毅	兼任
	スポーツ活動D	15	梅寄 周毅	兼任
	スポーツ活動E	15	梅寄 周毅	兼任
	スポーツ活動F	15	梅寄 周毅	兼任
	スポーツ活動G	15	梅寄 周毅	兼任
	スポーツ活動H	15	梅寄 周毅	兼任
	生命科学入門	8	上村 和秀、他	兼任
	医科学入門	8	長谷川 康博 平松 武幸	専任 兼任
	生と死の文化人類学	15	榊原 明	専任

				井上 千聖	兼任
		医療英語A(専門基礎系)	8	平松 武幸	兼任
		医療英語B (理学・作業専門系)	8	向 文緒 對馬 明	専任 兼任
		統計学	15	米澤 久幸	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・組織学	15	榊原 明 西沢 祐治	専任 兼任
		生理学	15	佐藤 純、他	兼任
		生化学	8	上村 和秀	兼任
		栄養治療学	8	谷口 いつか	兼任
		生命物理化学	15	山口 誠二	兼任
		分子生物学概論	8	山下 均	兼任
		臨床解剖学	8	長谷川 康博 小林 正典	専任 兼任
		臨床解剖学実習	22.5	長谷川 康博、榊原 明 西沢 祐治、他	専任 兼任
		体表解剖学及び実習	22.5	長谷川龍一、谷利 美希	専任
		臨床生理学	8	中川 与四郎 松田 輝、他	専任 兼任
		臨床生理学実習	22.5	中川 与四郎、谷利 美希 塩津 裕康、他	専任 兼任
		スポーツ医学	8	田島 織絵	専任
		作業運動学入門	15	長谷川龍一	専任
		作業運動学	15	長谷川龍一	専任
		作業運動学実習	22.5	長谷川龍一	専任
		健康増進学	8	津田 聡子 對馬 明	専任 兼任
		人間発達学	8	伊藤 玲子	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	生命工学入門	8	岡野 昭夫 小林 正典、他	専任 兼任
		臨床心理学	8	牧瀬 英幹	専任
		病理学	8	喬 善楼、他	兼任
		臨床病理学	8	山本 幸也	兼任
		薬理学	8	上村 和秀	兼任
		微生物学	15	伊藤 守弘、他	兼任
		免疫学	8	武田 湖州恵、他	兼任
		疾病病態学概論	15	山本 幸也	兼任
		疾病治療学概論	15	平手 裕市、他	兼任
		生涯人間発達論	8	津田 聡子	専任
		臨床心理学演習	15	牧瀬 英幹	専任
		栄養と疾病予防	8	田島 織絵	専任
		内科学	8	平松 武幸、他	兼任
		外科学	8	平手 裕市	兼任
		一般臨床医学	8	平手 裕市	兼任
		臨床神経学	15	長谷川 康博 櫻井 信夫	専任 兼任
		精神医学	15	牧瀬 英幹	専任
		老年医学	8	長谷川 康博 小林 正典、他	専任 兼任
		整形外科学	15	小林 正典	兼任
		小児科学	8	馬場 礼三	兼任
		臨床検査総論	8	青山 友佳	兼任
		放射線医学総論	15	伊藤 守弘、他	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	小林 正典、他	兼任
		公衆衛生学	15	坪井 秀夫	兼任

専門	基礎作業療法学	環境衛生学	15	近藤 文雄、他	兼任
		学校保健学	8	津田 聡子	専任
		生命倫理学	8	安林 奈緒美	兼任
		社会福祉学	8	坂野 尚美	兼任
		リハビリテーション医学A（総論・神経系）	8	長谷川 康博 小林 正典、他	専任 兼任
		リハビリテーション医学B（運動器系）	8	小林 正典	兼任
		精神障害リハビリテーション	8	奥村 務	兼任
		リハビリテーション工学	8	岡野 昭夫 永田 穰	専任 兼任
	作業療法学	作業療法学入門	8	岡野 昭夫、向 文緒、 澤田 泰洋、伊藤 玲子	専任
		作業学講義	15	谷利 美希	専任
		作業学実習A（基礎）	22.5	中川与四郎 滝川 幸志	専任 兼任
		作業学実習B（応用）	22.5	澤田 泰洋 栗田 恵子	専任 兼任
		作業療法研究法	8	中川与四郎	専任
		作業療法研究法演習	15	長谷川康博、岡野 昭夫、 長谷川龍一、向 文緒、 牧瀬 英幹、津田 聡子、 中川与四郎、澤田 泰洋、 谷利 美希、伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	8	向 文緒	専任
		作業療法管理学Ⅱ	8	長谷川龍一	専任
	作業療法評価学	運動障害評価学	15	長谷川龍一、谷利 美希	専任
		精神障害評価学	15	向 文緒、中川与四郎	専任
		運動障害評価学実習	22.5	長谷川龍一、谷利 美希	専任
		精神障害評価学実習	22.5	向 文緒、中川与四郎	専任
		発達期障害評価学	15	伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		発達期障害評価学実習	22.5	伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
	作業治療学	運動障害作業療法学	15	岡野 昭夫	専任
		運動障害作業療法学演習	15	岡野 昭夫	専任
		ハンドセラピー学	8	岡野 昭夫	専任
		中枢神経障害作業療法学	15	澤田 泰洋	専任
		中枢神経障害作業療法学演習	15	澤田 泰洋	専任
		内部障害作業療法学	8	澤田 泰洋	専任
		高齢期障害作業療法学	8	谷利 美希	専任
		作業療法事例研究法	8	澤田 泰洋	専任
		精神障害作業療法学	15	向 文緒、中川与四郎	専任
		精神障害作業療法学演習	15	向 文緒、中川与四郎	専任
		認知・高次脳機能障害作業療法学	8	澤田 泰洋	専任
		SST入門	8	向 文緒	専任
		発達期障害作業療法学Ⅰ	8	伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		発達期障害作業療法学Ⅱ	8	伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		発達期障害作業療法学演習	15	伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		装具作業療法学	15	岡野 昭夫	専任
		装具作業療法学演習	15	岡野 昭夫	専任

		日常生活活動支援学	15	岡野 昭夫	専任
		日常生活活動支援学演習	15	澤田 泰洋	専任
		職業関連活動作業療法学	8	向 文緒	専任
		ジョブコーチ入門	8	向 文緒	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学	8	谷利 美希	専任
		高齢期障害地域作業療法学	8	長谷川龍一	専任
		精神障害地域作業療法学	8	向 文緒	専任
		発達期障害地域作業療法学	8	伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		特別支援教育と作業療法	8	伊藤 玲子	専任
		国際協力とリハビリテーション	8	向 文緒 對馬 明、渡邊 雅行 友渕可乃子	専任 兼任
		生活環境論	8	磯部 友彦	兼任
		身体障害作業療法事例研究法演習	15	岡野 昭夫、榊原 明	専任
		精神障害作業療法事例研究法演習	15	向 文緒、牧瀬 英幹、 中川与四郎	専任
		高齢期障害作業療法事例研究法演習	15	長谷川龍一、津田 聡子、 谷利 美希	専任
		発達期障害作業療法事例研究法演習	15	田島 織絵、伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		高次脳機能作業療法事例研究法演習	15	長谷川康博、澤田 泰洋	専任
	作業治療学 地域作業療法学	卒業研究	60	長谷川康博、岡野 昭夫、 長谷川龍一、向 文緒、 牧瀬 英幹、津田 聡子、 澤田 泰洋、中川与四郎、 谷利 美希、伊藤 玲子	専任
	臨床実習	作業療法入門実習	—	岡野 昭夫、長谷川龍一、 向 文緒、中川与四郎、 澤田 泰洋、谷利 美希、 伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		臨床見学実習A（Ⅰ）	—	岡野 昭夫、長谷川龍一、 澤田 泰洋、谷利 美希、 伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		臨床見学実習A（Ⅱ）	—	岡野 昭夫、長谷川龍一、 澤田 泰洋、谷利 美希、 伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		臨床見学実習B	—	向 文緒、中川与四郎	専任
		臨床評価実習	—	岡野 昭夫、長谷川龍一、 澤田 泰洋、谷利 美希、 伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任
		総合臨床実習A	—	岡野 昭夫、長谷川龍一、 澤田 泰洋、谷利 美希、	専任
		総合臨床実習B	—	向 文緒、中川与四郎、 伊藤 玲子 塩津 裕康	専任 兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法入門実習	1年後期	作業療法学入門	1年前期
臨床見学実習A（Ⅰ）	2年後期	作業療法学入門 作業療法管理学Ⅰ	1年前期
臨床見学実習A（Ⅱ）	2年後期	作業療法学入門 地域作業療法学	1年前期 2年前期
臨床見学実習B	3年前期	作業療法学入門 精神障害評価学 精神障害評価学実習 精神障害地域作業療法学	1年前期 2年前期 2年後期 2年後期
臨床評価実習	3年後期	運動障害評価学 運動障害評価学実習	2年後期 3年前期
総合臨床実習A	4年前期	運動障害作業療法学 運動障害作業療法学演習 認知高次脳機能障害作業療法学 日常生活活動支援学 日常生活活動支援学演習 中枢神経障害作業療法学 中枢神経障害作業療法学演習 装具作業療法学 内部障害作業療法学 作業療法事例研究法 作業療法管理学Ⅱ	2年後期 2年後期 2年後期 2年後期 3年前期 3年前期 3年前期 3年前期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期
総合臨床実習B	4年前期	精神障害作業療法学 精神障害作業療法学演習 発達期障害作業療法学Ⅰ 発達期障害作業療法学Ⅱ 発達期障害地域作業療法学 高齢期障害地域作業療法学 精神障害地域作業療法学 職業関連活動作業療法学 作業療法管理学Ⅱ	3年前期 3年後期 2年前期 3年前期 3年後期 3年後期 2年前期 3年前期 3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3

	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	花井 忠征 副学長
組織の開催頻度	1年に3回
組織の取り組み内容	- 大学全体としての自己点検・評価
	- 各組織、部署における自己点検・評価
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL：https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/ ）

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する	名称	シラバス第三者点検
	委員構成等	点検責任者（作業療法学科主任）およびその責任者が選出した教員

仕組み	改善の仕組みの実際	科目ごとに定められた「カリキュラムの中での位置付け」の観点からシラバスの第三者点検を点検責任者およびその責任者が選出した教員により行い、シラバス記載内容を改善している。
-----	-----------	--

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・自己評価の結果をふまえ、ピアレビュー委員会（学内他組織による外部評価組織）からの提言より改善策を検討する。